

地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital



副院長就任のご挨拶

令和8年4月1日より副院長を拜命致しました。2014年に当院に赴任となり、以降泌尿器科医として、2023年からは緩和ケア内科も兼任となり、皆様にお世話になりながら現在に至っております。今後は、微力ではございますが、地域医療の発展や連携のために努めて参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

私は1966年に東北の仙台市で生まれました。小学4年生になるまで、仙台・山形・松山・シアトル・松山と親に連れられ引っ越しと転校を繰り返しました。引っ越しの度に方言を揶揄され、言葉と人種の壁に遮られたりしましたが、負けず嫌いな所と鈍感な性格のため乗り越えてこられました。そして、環境の変化する事に慣れたおかげか、初対面の方にも人見知りしない“振り”が出来るようになりました。この子供時代は、良い経験になったと今では思えます。

中学・高校は松山にある一貫校で、硬式テニス部に所属していました。1年浪人の末、京都大学医学部に入学。その当時、現役で入学していた高校の同級生がラグビー部に入っており、その流れでラグビー部に入部する事になりました。今思えば、痛くて汚くてしんどいスポーツをよく続けたものだと思います。しかし、自己を犠牲にして

でもチームの勝利を目指し、試合が終わればノーサイドと敵味方の区別なく健闘を称え合う文化があるラグビーという競技に出会えたのもよい経験になりました。

1992年に京都大学を卒業後、京都大学泌尿器科の医局に入局しました。この教室は京大の自由な気風と共に、厳しいプロフェッショナルリズムがあり、その空気感は今も変わっておりません。大学病院で研修した後は、洛和会音羽病院、倉敷中央病院、医仁会武田病院で経験を積みました。1998～2002年大学院での研究生生活の上、2004年に学位取得しました。その後天理よろづ相談所病院、滋賀県立成人病センター（現：滋賀県立総合病院）を経て当院に赴任しております。

私が大学を卒業した頃と現在の医療とで、患者さんを大事にする・チーム医療を行う・プロとして丁寧に誠実な仕事するなど変わらない事は多いと思います。一方、卒業当時と良い意味で変わったと感じる事は、医療は一つの施設だけで支えるものではないという事です。病院だけで患者さんは支えられません。地域の医療に携わる皆様全員で患者さんやご家族を支えて行きたいと思っております。ラグビー経験者の使い古された言葉かもしれませんが、「One for all, All for one」の精神で副院長業務に励んで行きたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆ プロフィール ◆

1992年 京都大学卒業

専門資格

- 日本泌尿器科学会泌尿器科指導医・専門医
- 日本泌尿器科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本DMAT隊員

専門分野：泌尿器科全般



泌尿器科・緩和ケア内科

いしや さとし

石戸谷 哲



日本赤十字社 大津赤十字病院 地域医療連携課

〒520-8511 滋賀県大津市長等一丁目1番35号
TEL.077-522-8535(直通) FAX.077-522-4385(直通)

予約受付 月曜日から金曜日(平日) 午前8時30分から午後7時00分まで
土曜日 午前9時00分から午後1時00分まで



大津赤十字 泌尿器科

